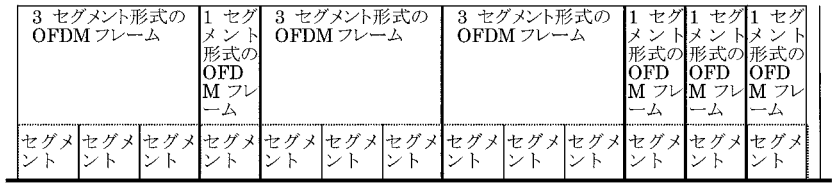
3　連結したＯＦＤＭフレームを送信する場合

１セグメント形式のＯＦＤＭフレームあるいは３セグメント形式のＯＦＤＭフレームを下記の例のように連結する。



別表第九号　搬送波を変調する信号の通信速度（第11条第７項関係）

搬送波を変調する信号の通信速度Ｂは、次式に示すとおりとする。

$$B=\frac{C}{T_s}$$

T_s　：別表第六号又は別表第十六号に示すシンボル期間長

Ｃ　：以下に示す伝送主シンボル、ＴＭＣＣシンボル、ＳＰシンボル、ＣＰシンボル若しくはＡＣシンボルに対応するキャリア数又はそれらの総数

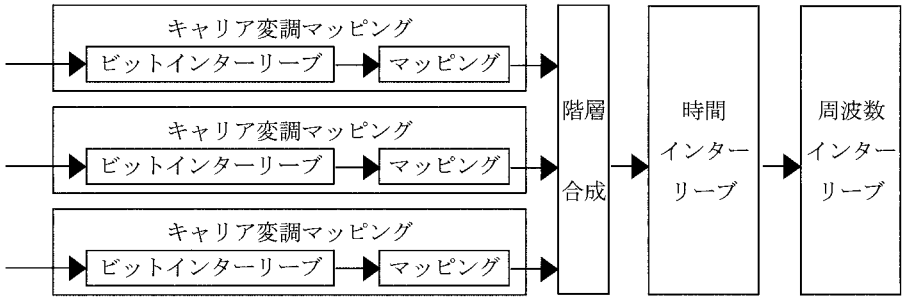
	モード１	モード２	モード３
伝送主シンボル	96×Ｎ	192×Ｎ	384×Ｎ
上記以外	12×Ｎ＋１	24×Ｎ＋１	48×Ｎ＋１
（内訳）ＴＭＣＣシンボル	$n_s+5\times n_d$	$2\times n_s+10\times n_d$	$4\times n_s+20\times n_d$
ＳＰシンボル	$9\times n_s$	$18\times n_s$	$36\times n_s$
ＣＰシンボル	n_d+1	n_d+1	n_d+1
ＡＣシンボル	$2\times N+4\times n_d$	$4\times N+9\times n_d$	$8\times N+19\times n_d$
計	108×Ｎ＋１	216×Ｎ＋１	432×Ｎ＋１

伝送主シンボルが差動変調によるＯＦＤＭセグメント数：n_d

伝送主シンボルが同期変調によるＯＦＤＭセグメント数：n_s

（（$n_d+n_s=N$）ただし、Ｎは地上基幹放送局を用いて行う超短波放送のうちデジタル放送については、１セグメント形式のＯＦＤＭフレームの場合は１、３セグメント形式のＯＦＤＭフレームの場合は３とし、地上基幹放送局を用いて行う標準テレビジョン放送のうちデジタル放送及び高精細度テレビジョン放送については13、セグメント連結伝送放送については、１セグメント形式のＯＦＤＭフレームの場合は１、13セグメント形式のＯＦＤＭフレームの場合は13とする。）

別表第十号　データセグメントの送出手順（第12条第２項関係）



注１　キャリア変調マッピングの信号処理手順等は、別記１に示すとおりとする。

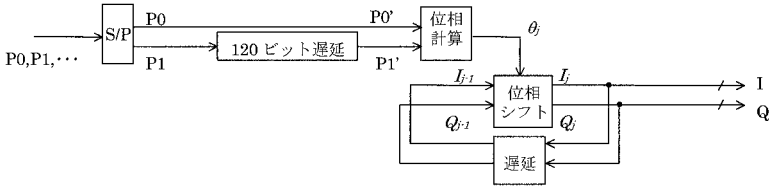
２　階層合成の信号処理手順は、別記２に示すとおりとする。

別記１　キャリア変調マッピング

キャリア変調マッピングの形式は、伝送主信号に対して誤り訂正内符号化した信号については４分のπシフト差動４相位相変調、４相位相変調、16値直交振幅変調又は64値直交振幅変調とする。

１　４分のπシフト差動４相位相変調のためのキャリア変調マッピング

⑴　信号処理手順



ア　位相計算は以下に示すとおりとする。

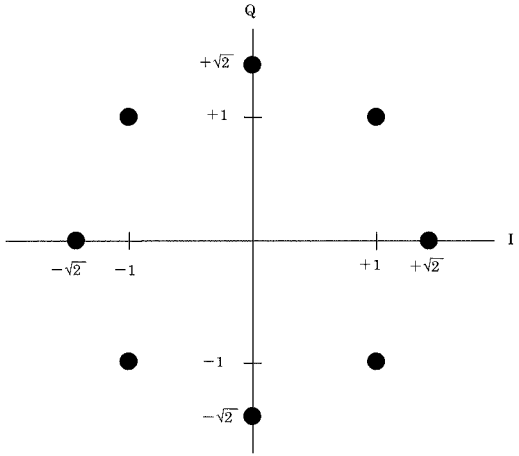
入力 Ｐ０’　Ｐ１’	出力 θ_j
０　０	$\pi/4$
０　１	$-\pi/4$
１　０	$3\pi/4$
１　１	$-3\pi/4$

イ　位相シフトは以下に示すとおりとする。

$$\begin{pmatrix}I_j\\Q_j\end{pmatrix}=\begin{pmatrix}\cos\theta_j & -\sin\theta_j\\ \sin\theta_j & \cos\theta_j\end{pmatrix}\begin{pmatrix}I_{j-1}\\Q_{j-1}\end{pmatrix}$$

ただし、$(I_j,\ Q_j)$は出力されるシンボル、$(I_{j-1},\ Q_{j-1})$はその１つ前のシンボルを示す。

⑵　位相図



２　４相位相変調のためのキャリア変調マッピング

⑴　信号処理手順

